

## 事業完了報告書

### 調査研究期間等

調査研究期間	令和4年6月10日 ~ 令和5年3月15日
調査研究事項	《委託研究Ⅳ》 ア. 教職員の配置・研修に関すること 《委託研究Ⅵ》 イ. 夜間中学における教育活動充実に関すること 《委託研究Ⅱ》 ウ. 広報・相談体制の充実に関すること
調査研究のねらい	<p>夜間学級には、外国籍の生徒や、日本国籍であっても外国語を母語とする生徒が多く在籍する。また、多くの高齢の方が今までできなかった学びを求めて夜間学級を訪れる。そういった国籍や年齢が多様な生徒が充実した学校生活を送るための教育活動の充実、環境整備の推進をねらいとしている。</p> <p>昨年度、文部科学省の設置促進・充実事業に採択され、教育活動の充実及び環境整備の充実のために、1 関西先進校及び関東近郊の先進施設への視察、2 看護師による健康観察、3 修学旅行における貸し切りバスの運用、4 夜間学級のパンフレット・ポスター制作等を計画した。特に3の修学旅行における貸し切りバスの運用では、高齢者の現地での体力的な負担を減らすことができ、非常に有意義な修学旅行を実施することができたため、今年度も同様の取組を計画した。また、4のパンフレット及びポスターの作成においても、近隣地域に住む学びの必要な人たちに夜間学級の概要を知らせることができ、前年度に比べ、1.5倍以上の問い合わせにつなげることができている。この取組も今後、継続的に行っていききたい。一方、1の先進校視察については、関東近郊の視察が新型コロナウイルス感染拡大の影響で、昨年度は実施できず、また2の看護師による健康観察及び健康教育についても、新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施につなげることができなかったため、今年度は取組時期を十分に検討しながら実施にむけて取り組んでいきたいと考えている。以上を踏まえ、次に示す内容を今年度の調査研究のねらいとして設定する。</p> <p>ア-1 関東近郊及び関西地方の先進校を視察し、校内発表会で情報を共有することで、教職員の指導力向上につなげることをねらいとする。</p>

	<p>ア-2 外部講師を招聘し、校内研修会を実施することで、教員の資質向上につなげることをねらいとする。</p> <p>イ-1 専門スタッフ（看護師や通訳など）を活用し、昼間勤務に従事している生徒に対し、仕事と学業の両立をしていくための健康管理や風邪、感染症予防など、意識付けることをねらいとする。</p> <p>イ-2 経済的負担を考慮した効果的な学校行事や校外活動等を充実させることをねらいとする。</p> <p>ウ 広報活動を図るための方法、広報誌の内容・設置場所や設置方法を検討し、夜間学級における教育活動を地域に周知させることをねらいとする。</p>
<p>調査研究の成果</p>	<p>ア-1 関東で開催された全国夜間中学校研究大会へ参加した。全国大会は令和4年11月17日（木）及び18日（金）に川口市川口総合文化センターリリアで開催された。3年ぶりの大会となり200名を超える参加者が全国から集まった。今年度開校した4校の夜間学級から経緯と現状報告がなされた。また、領域分科会及び教科別分科会では、日ごろの成果を持ち寄り、議論を交わすことで、互いの学びを深めることができた。</p> <p>川口市立芝西中学校陽春分校への視察も行った。新校舎建築を前に、現在は旧校舎を使用している。生徒の数に対して敷地が広いため、臨時校舎ながら広々としている。生徒は学習意欲に富んでおり、学習には活気があった。その中で教員間の交流の時間を設けたため、他校と実践例を交換することができた。</p> <p>また、関東の先進施設である、横浜市日本語支援拠点施設「ひまわり」を視察した。平成29年に開設された横浜市初の支援施設で、帰国・来日間もない児童生徒が日本の学校での学びに速やかに適応できるよう、日本語指導と学校生活指導を実施している。日本語指導講師とプレクラス指導員がペアで授業を行っており、丁寧な指導の様子がうかがえる。特に、日本語が全く分からない生徒には、繰り返し何度も指導を行い、上達を認める姿勢でいることで、生徒らが楽しく学ぶ様子を見ることができた。</p> <p>さらに、群馬県太田市「プレクラスひまわり教室」も視察した。平成20年文部科学省の促進事業により、日本の学校に編入する外国人の子ども達等への初期集中的な指導</p>

(40日間)を行う教室として開設された本教室は、令和5年3月までに386名が学びを修了している。ポルトガル語話者2名、スペイン語話者1名、英語・タガログ語話者1名と校長経験者のアドバイザーが授業を受け持ち、生徒の習熟度に合わせた学習計画を立案するとともに、教員同士で計画や教材を共有することで、効率の良い学びを展開していた。

関西地方では、不登校特例校である「香川県三豊市立高瀬中学校」及び「香川県丸亀市立城乾小学校内『にほんご教室』」の視察を行った。「三豊市立高瀬中学校」は令和4年4月に開設された夜間学級であり、8月29日時点で夜間学級に9名が在籍する。対象生徒は、①義務教育未修了者②不登校等の理由により、十分に学ぶことができなかった方(外国籍の方を含む)③不登校学齢期生徒である。①及び②は既存の夜間学級と同じであるが、③については文部科学省の不登校特例校の指定を受けることで受け入れを行っている。三豊市では長期欠席生徒が増加傾向にあることから、③の申請を行った。体験期間を過ぎ正式入級となった場合は、籍を高瀬中学校に移し、卒業をしていく予定である。「丸亀市立城乾小学校内『にほんご教室』」は、日本への入国直後で、サバイバル日本語からの指導が必要な児童生徒合わせて8名が定員である。1人の指導員が2名までの指導を行う。1校時に全体指導、2・3校時に個別指導、4校時以降は在籍校での指導を行うことで、学校生活や友人関係の確立を図っている。特に教材「みえこさんの日本語れんしゅうちょう」に関しては、本学級ですぐに使える内容であることから、共有を行っている。

ア-2 本夜間学級においては、日本語指導で使用する教材に毎年苦慮しており、教材ベースをどのように体系化していくかがここ数年の課題となっていた。そこで、今年度は日本語教育における教材の選択と方法について、元筑波大学人文社会学研究科教授を招聘し、校内研修を2回行った。1回目の研修で、日本語指導に関する懇談会、及び日本語学級の授業見学を実施した。2回目に、参観いただいた授業について指導・助言をいただいた。分かりやすい教材開発、また感性の違いから誤解が生じ、トラブルとなるケースなどの例示や解決方法についてご示唆をいただいた。

	<p>イ-1 看護師による健康観察、及び健康相談を年間7回実施した。若い生徒と年が近い看護師に勤務を依頼したことで、生徒らが相談のしやすい環境となった。また、授業中・授業間に各クラスを観察し、体調管理に目を配るなど、生徒自身の健康管理につながる活動を行った。</p> <p>イ-2 修学旅行において貸し切りバスを使用し、生徒の体力的な負担を減らし、現地での見学をより効果的なものにするために、2泊3日の行程のうち、第2日目をバス移動とした。台風の影響で1泊2日の日程となったが、大きな効果として次の点が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・高齢者や外国籍の生徒を安全かつ効率的に目的地に引率することができた。</li><li>・公共交通機関を活用することがなかったため、新型コロナウイルス感染症への感染予防として大変重要な役割を果たした。</li><li>・徒歩等での移動を極力抑えることができ、特に高齢者は体力を確保する意味でとても重要な役割を果たした。</li><li>・移動中のバスの中で、事前学習の確認時間を確保することができ、学習内容を深めることができた。</li></ul> <p>ウ 本学級のパンフレット及びポスターを制作・設置し、夜間学級における教育活動を広く周知させることを目的とした。今年度、本学級が閉級を迎えるにあたり、ポスター40枚とパンフレット200部を作成した。主な掲示・配布場所としては以下の通り。</p> <p>ポスター…区内中学校、近隣の駅（11駅）、近隣商店街や個人商店、公共施設等</p> <p>パンフレット…区内中学校、公共施設等</p> <p>本学級について、地域へ広く知らせ、学びの必要な人たちがスムーズに入級できるよう、駅等へのポスターの掲示時期を2月からとした。効果としては以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 不登校の既卒者や卒業生へ渡したいので、更にパンフレットを送ってほしいという連絡が区内中学校数校からあった。</li><li>② ポスターやパンフレットを見て、入級の連絡をしたという問い合わせが、前年同月の15件に対し18件あった。今後入級希望の生徒の数は増加してくると思われる。</li></ol>
--	--